

大舞台 ジャンプ決める

フィギュア女子

熊本高専 熊本1年 浜選手が意気込み

22日に山梨県などで開幕した全国高校スケート・アイスホッケー選手権大会（全国高体連など主催、読売新聞社共催）。23日から競技が始まり、熊本県内からは、フィギュアスケートとスキーに計3選手が出場する。このうち、フィギュア女子に出場する熊本高専熊本（合志市）1年の浜七望選手（16）を紹介する。

（丸山一樹）

「ダブルアクセル（2回や、ステップのミスは少な転半ジャンプ）を跳びたいものの、高得点につながるジャンプに安定感がないのが課題だ。今大会の出場選手は、約

150人を超える。最初に挑むショートプログラムで上位24人に入らないと、フリースケートに進めない。高校3年までにフリーに進出を目指しているだけに、1年で臨む今回は、「少しでも上位に食い込みたい」と言う。

熊本は決して恵まれた環境とはいえない。しかしスケートをやめようと思ったことはないという。「ジャンプが成功した時の喜びは何にも代え難い。大会では、熊本代表でも頑張れるんだ」というところを見せた。フィギュア女子は、山梨県甲府市の小瀬スポーツ公園アイスアリーナで23、26

高校総体



指そうと、九州で最もレベルが高い福岡県のコーチから指導を受けている。週に3回程度は、練習拠点の久留米市まで両親が1時間以上かけて車で送迎する。学校の授業を終えた後に移動し、約2時間半練習し、帰宅は午後11時を回るという。



本番へ向け滑りを磨く浜選手

全国高校スケート・アイスホッケー選手権大会の各会場では22日に開始式が行われ、選手たちは健闘を誓った。大会には36都道府県の選手約1050人が参加する。

浜選手「成果出す」 開始式 健闘誓う

甲府市の小瀬スポーツ公園武道館で行われたフィギュアスケートの開始式で、浜七望選手は、「ダブルアクセルとステップの練習に力を入れてきた。緊張するが、練習の成果を出せるように頑張りたい」と話した。